

進路だより 号外

進路だより 第749号
平成29年10月2日

◆ TOPIC ◆ 地方国公立のすすめ 田舎へ行こう

表は企業が今後「もっと採用を増やしたい」と考えている大学のランキングで上位30位(38大学)が載っています(有力847社調査日経 CAREER より)。この中で28大学は国立大学です。上位には**秋田大、岩手大、弘前大**といった東北の国立大学。**九州工大、鹿児島大、香川大、愛媛大**といった九州、四国の国立大が目立ってランクインしています。そして名大や名工大はもちろん、富山大、信州大、静岡大の中部勢も入っています。東大や京大は？と思う人がいるかもしれませんが、すでに十分採用している大学は載っていません。採用したいけれどまだ足りないという大学が載っています。つまり企業の多くが地方の国立大学からもっと採用したいと考えているのです。ちなみに1位秋田大は何が評価されているかという「行動力」「対人力」だそうです。秋田という土地柄からはちょっと想像しにくいですが、逆に立地的に不利なため都会の学生に負けない教育がなされているのかもしれないですね。

最近、遠くの大学へは進学したがるならないという話をよく耳にします。でも先生方が遠くても国公立を薦めるのは、やはり「国公立なら間違いなし」という確信があるからです。少人数教育、学生の質の高さと研究レベルの高さ、設備など国がお金をかけて設置しただけのことはあります(私大のきれいな建物や宣伝だけに魅かれています)。グローバルな時代、せめて日本全国を見渡して大学を考えるという視点を持つていいのではないのでしょうか。

(文責：岡崎)

順位	分類	大学名	「増やしたい」率(%)	順位	分類	大学名	「増やしたい」率(%)
1	国	秋田大学	78	20	国	大阪大学	55
2	国	岩手大学	75	20	国	静岡大学	55
3	国	九州工業大学	74	20	国	鳥取大学	55
4	国	弘前大学	73	23	私	北海学園大学	54
5	国	宇都宮大学	70	24	私	金沢工業大学	53
6	私	北里大学	69	24	国	熊本大学	53
7	私	国士舘大学	63	24	国	信州大学	53
8	国	名古屋大学	62	27	私	関西外国語大学	52
9	私	大阪工業大学	61	27	国	埼玉大学	52
9	国	鹿児島大学	61	27	国	山形大学	52
9	私	東京電機大学	61	30	国	茨城大学	50
9	国	長岡技術科学大学	61	30	国	愛媛大学	50
13	国	香川大学	60	30	国	大分大学	50
14	国	名古屋工業大学	58	30	国	九州大学	50
15	私	芝浦工業大学	57	30	私	久留米大学	50
15	国	電気通信大学	57	30	国	佐賀大学	50
17	国	岡山大学	56	30	私	成蹊大学	50
17	国	東京海洋大学	56	30	私	玉川大学	50
17	国	富山大学	56	30	国	東京工業大学	50

♪3年の窓♪ 志望校合格に向けて、最短ルートとは？

いよいよセンター試験まで100日程度になりました。夜や朝の気温がぐっと下がり、今年も寒い季節と同時にセンター試験も近づいてきていると実感します。

さて、「志望校合格に向けて、最短ルートとは？」と書きましたが、そんなもの本当にあるのでしょうか…それは出題傾向にあります。昔から言われていることですが、「彼を知り己を知れば百戦殆からず」というように、入試科目、配点、そして出題傾向を把握することによって、優先して対策すべき内容が見えてきます。志望校では記述式の問題が多く出題されるのに、選択式の問題ばかり演習しては、得点力は上がりにくいでしょう。

まずは、過去問を見て、問題の内容と量・試験時間・解答方式(選択式か記述式か)を確認しましょう。その場で解く必要はありませんが、数年分は目を通したほうがいいでしょう。問題の内容については、どんな分野から多く出題されているかをよくチェックしよう。例えば数学ならベクトルが、英語なら英作文が毎年出題されるなど、科目ごとに傾向があるはず。そのほかに、物理、化学、生物、地学なら実験を考察する問題の有無、英語なら長文の長さを見ておくと、対策を立てやすくなりますよ。また併願校の過去問も見ておきましょう。大学ごとの出題傾向の違いから、志望校の出題の特徴が浮き彫りになってわかりやすいと思います。

つぎに対策を立てましょう。科目の優先順位は、配点の高い科目と苦手科目に重点を置くのがお勧めです。配点の高い科目はライバルに差をつけるカギになりますし、苦手科目は得点力の伸びしろが大きいはず。どの科目に力を入れれば総合点を上げられるか考えてみましょう。

科目の優先順位が決まったら、今度は優先分野を決めていきましょう。ポイントは、頻出、かつ対策に時間がかかるものに力を入れることです。例えば、英作文や現代文の要約問題は、形式慣れするのに時間がかかります。もし苦手なら、多めに時間を割いて対策すべきですね。

試験までの時間は刻々と迫っており、焦りが生まれるのはしょうがないことです。しかしただ焦ってがむしゃらにやるのが良いとは限りません。目標に向けて最短ルートとは？を常に考えて、万全の準備をすることが、焦りをちょうどよい緊張感へと変えると思います。多治高生の未来を信じて…

(文責 渡邊完)

♪2年の窓♪ 自分の将来、イメージできていますか？

頬を撫でる秋風が心地よい季節となりました。

早いもので2年生ももう半分が過ぎ、3年間の折り返し地点ですね。残り半分の高校生活、あなたはどのように過ごしますか？

夏休みのオープンキャンパス、9月の「先輩と語る会」などは、リアルな“大学”を知る良い機会でした。自分の目を見て、話を聞いて、志望校が固まった人もいれば、逆に余計わからなくなってしまった人もいると思います。今、まだ志望校が決まっていなくても焦る必要はありません。ただ、自分が「どこで」「何をしたいか」はそろそろ固めておいた方がいいと思います。「実家を出たい」「地元にいたい」「数学が好き」「経済に興味がある」「留学したい」「看護師になりたい」スタート地点は何でも構いません。自分の軸をしっかり持つことが大切です。そうすれば自ずと、志望校も定まるのではないのでしょうか。

文系・自然科学コースの人は、10月中に科目選択があります。選んだ科目によって、受験できる大学・受験できない大学も出てきます。少し先の未来のことを考えて、慎重に選びましょう。困ったときは、気軽に周りの先生に相談してみてください。そして理系の人も、「自分は関係ない」とは思わず、文系・自然科学の人たちと同じくらい、自身の将来について考え始めてほしいです。

ところで先日の前期末考査の結果はどうでしたか？ 定期考査は普段の授業をどれだけ理解できているかが試されます。そして、それは模試や入試でも同じことです。センター試験は1, 2年で習う内容がほとんどだということは知っていますよね。1年生の模試では、授業でまだあまりやっていない内容が出たこともあるかもしれませんが、2年生になった今、模試で聞かれるのはすべて「今までに習ってマスターしているはずの問題」になっているはずです。模試や入試で良い結果を出したいのなら、まずは毎日の授業や課題に真剣に取り組むのが一番。その上で、1日30分だけ、授業の予習・復習でも、学校で出された課題でもない勉強をほんの少しやってみてください。それだけで、もう立派な受験勉強、模試対策です。 (文責：松岡)

♪1年の窓♪ 文理選択と教科

先日の進路講演会で、文理選択について話を聞きましたが、何か印象に残っていることはあるでしょうか。話の中に文理選択の失敗パターンとして「嫌だから避ける」のいうものがありましたね。

将来を決定する上でもそのような選択は望ましくありませんが、それよりもっと手前にある大学入試でもなるべくそのような意識を持ってほしくはありません。

例えば国立大学を目指すとするれば文系でも数学が、理系でも国語が必要となります。教科の好き嫌いは誰しもあるかもしれませんが、「嫌だ→やらない」という発想は自分の可能性を狭めてしまいます。

しかし実際のところ、将来勝負する相手になる全国の受験生の多くは「〇〇が苦手だから△系」という発想をして文理選択や受験に臨みます。ということはなかなか点の取れない教科が出てきます。ある教科への苦手意識が少ないことはそれだけで大きなアドバンテージになるのです。例えば、2次試験で数学のある国公立大学の文系学部は数学で点が取れることが合格へ近道になります。英語に関しては理系であってもほとんどの大学で科目として課せられているので受験生として決して逃げることはできません。

好きな教科や関心のある分野、自分の目指している進路に直結する、というように前向きな理由で考えてみてください。その上で一見進路に直結しないと思われるような教科についても安易に「いらぬ」、「やらない」という発想にしてしまわないように学習に取り組んでみてください。

(文責：安藤)